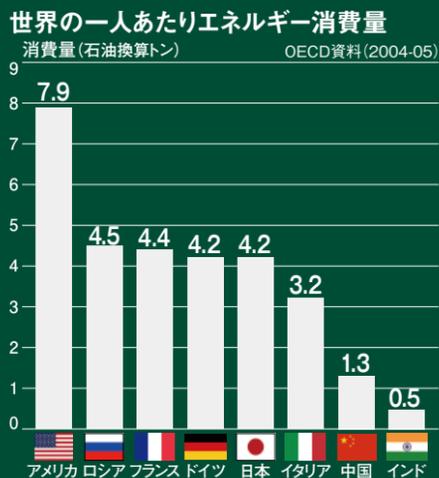


ポスト・ブッシュ、環境大国へ オバママケインの 環境政策

20世紀型の大量消費文明の象徴である米国は、京都議定書の枠組みとも一貫して距離を置き、地球規模の環境活動における存在感は決して大きくなかった。しかし、大統領選のオバマ・マケイン両候補者とも「環境」を前面に掲げ、どちらの候補が当選しても、積極的な環境政策、特に「脱石油」への大転換になるのは間違いない。米国の環境・エネルギー政策、ビジネス・ライフスタイルはどう変貌するのか。

(米シアトル州「岩下慶」、サンフランシスコ「形山昌由」、佐々木順子、ロサンゼルス「寺町幸枝」)



どっちが勝っても「脱石油」

などがない。

今回のレースの重大な争点の一つが「環境」だ。そして、この大統領選挙の帰すうは近い将来、米国だけではなく地球規模の環境対策に大きな影響を及ぼすのは間違いない。メディアの世論調査では9月中旬現在、ほぼイーブンの結果で、どちらが勝つかは本当に分からないが、オバマ・マケイン両者の環境・エネルギー政策の違いを比較してみよう。

争点は「イラク」から「環境」へ

つい半年前まで大統領選挙の最大の争点はイラク戦争だった。早期撤退を主張するオバマ・ヒラリーの民主党サイドと、あくまで完全勝利を目指すマケインの間で論戦が張られていたが、米国に広まった厭戦感、民主党への追い風になっていった。

そこに降って沸いたのがエネルギー問題。オバマ指名が決定したところから原油価格高騰が始まり、一時期はバレル140ドルを突破、10年前に100ドル程度だったガソリンは今や4倍以上である。あらゆる生活必需品が値上がりし、米国民の関心は一気にエネルギー問題にシ

フトしてしまった。環境政策を含めたエネルギー問題が、イラクを超える重要なテーマになってきたのだ。

石油エネルギー依存体質を変えるべきであるという認識は今や共和党にまで広がっており、マケインのエネルギー政策もかなりエコロジー志向となっている。

脱石油エネルギー、CO₂をはじめとする排出物の制限、という2点においてはオバマとマケインの主張はほとんど同じだ。しかし、細かいアプローチではかなり異なる。まずはオバマの政策を見てみよう。

自然エネルギーを推すオバマ

オバマは「グリーン」は米国人の「モラル・チャレンジ」だとして、かなり大掛かりな目標を掲げている。「アポロ計画規模」と自賛する自然エネルギー開発に1500億ドルの投資を行い、石油に依存しない国家を目指す。設定目標はかなり高い。

2018年までに一日300万バレルの石油消費を削減、2030年までには削減量を1000万バレル、現在の半分近くに

持っていく。問題は削減量をどうやって補完するのだが、そこで推進しようとしているのがバイオ燃料だ。

オバマが特に推しているのは、牧草やトウモロコシの茎などを使った、食料と競合しないセルロースエタノール。これを2013年までに20億ポンドに増産するという。この技術開発のためにベンチャーキャピタルファンドを創設し、100億ドルを投入する。結果として、技術開発・雇用創出の一石二鳥が見込めるといわれる。

2025年までに風力、地熱、太陽光発電の比率を総電力発電の25%までに引き上げる。これらは第三セクターの事業とし、ここでも雇用が期待できる。オバマ陣営がはじいたソロバンでは、新エネルギー開発による雇用創出効果は500万ドル。

一方で、企業に対する規制についてはかなり厳しい態度を打ち出している。排出権取引を推進するだけでなく、石炭をはじめとする「ダーティー」(汚れた)エネルギーには厳しい課税を行う。

オバマはまたハイブリッドカーの信奉者として知られ、とくに家庭用電源など

環境・エネルギー政策を大転換

今後数年間のうちに米国は大きな転換期を迎える。イラク問題の収束、覇権国家からの退陣などさまざまな変化が予想されるが、世界の流れを変えるという意味で一番大きな「チェンジ」を引き起こすのは環境・エネルギー政策ではないだろうか。

ナンバーワンの石油消費国が「脱石油」を試みるのだから、世界に与えるインパクトが小さい訳はない。大げさではなく、地球の産業地図を塗り替える変革になるだろう。そして、その最初の「太刀を振る」のが11月に選出される第44代大統領である。

民主党のバラク・オバマ、共和党のジョン・マケインのうち、オバマのスター性からか、日本では「次期大統領はオバマ」という見方が強い。しかし、今年米国を襲ったガソリン高騰のさなか、比較的具体なエネルギー政策を提示していることもあって、マケインの人気はじりじり上がってきた。

マケインは共和党候補としては異色とも言えるフレキシブルな人物だ。媚びへつらいではない柔軟な政策、支持団体さえ敵に回す事を厭わない意思の強さ。骨のある人物である事は誰もが認めるところだ。テレビ討論で見せる茶目つやや笑顔は、従来の共和党候補の頑迷で威圧的

マケイン・オバマ両候補の環境・エネルギー政策の違い

候補者	マケイン McCain	オバマ Obama
原子力発電	推進派、2030年までに45基を増設	安全性は認めているが、廃棄物処理を理由に増設には反対
海底油田採掘	すぐにでも開始を主張	一部は止むを得ないが、自然エネルギーの開発に力を注ぐべき
自動車	電気自動車を推進。加えて電力インフラ強化	インフラ整備の必要性がないハイブリッドを推進
エタノール燃料	食糧事情を逼迫するので反対	賛成。セルロースエタノールで食糧危機を回避
風力、太陽発電等の開発	積極的。ただしあくまで補完的な位置付け	積極的。かなり多くの開発予算を配分
企業への対応	排出量取引(CAP AND TRADE)支持	排出量取引は支持、但し課税や規制も積極的に行う